

平成30年(2018年)の主な気象災害

期日・期間	現象名	気象概況	被害状況
2月2日	濃霧	2日未明、気圧の谷の通過後急速に晴れたため、前日降った雨による湿った空気が冷やされて局地的に濃霧が発生した。	2日午前中、濃霧のため新岡山港発の土庄港行きフェリー3便が欠航した。また、JR宇野線の茶屋町駅 - 備前田井駅間で速度を落として運転したため、12本の列車に遅延が発生した。
3月1日	強風 波浪	発達した低気圧が日本海を通過したことにより県内全域で強風となった。	強風によりJR宇野線の岡山駅 - 宇野駅間で運転を見合わせ、運休4本、遅延28本が発生した。また、波浪のため宇野港と高松港を結ぶ航路を中心に四国フェリー、両備フェリー、三洋汽船、瀬戸内観光汽船で合わせて45本が運休した。
5月3日	強風 その他(風)	中国地方は上空の寒気の影響で、大気の状態が不安定となっており、岡山県では局地的に雷雲が発生し、岡山市で突風が吹いた。	共同住宅のスレート屋根が周囲に飛散した。 一般住宅のポリカーボネート製の屋根が半分ちぎれ周囲に飛散した。
7月5日 ~7日	大雨 強雨	梅雨前線が西日本上空に停滞し、この前線に向かって極めて多量の水蒸気が流れ込み続け、前線の活動が非常に活発となった。 このため、岡山県では7月5日から7日にかけて記録的な大雨となり、6日夜には県内24市町村に大雨特別警報を発表した。 7月5日から7日までの期間降水量は、鏡野町富で453.0ミリ、同じく鏡野町恩原で443.5ミリを観測したほか、県内の多くのアメダス観測所で300ミリを超えた。 気象庁は6月28日～7月8日の西日本を中心に全国的に広い範囲で発生した記録的な大雨の名称を「平成30年7月豪雨」と定めた。	記録的な大雨により、岡山県内では洪水害、浸水害、土砂災害が多数発生し、死者66名(うち災害関連死5名)、行方不明者3名の人的被害に加え、全壊4828棟、半壊3302棟等の住家被害が発生した。特に小田川及び支流が決壊した倉敷市真備町では町中心部が水没し甚大な被害となった。 岡山県の被害額は公共土木施設が約302億円、農林水産関係が約266億円に上がった。
8月22日 ~24日	高潮	四国の南を北上した台風第20号は、8月23日21時頃に徳島県南部に上陸したのち、23時半頃に兵庫県姫路市付近に再上陸、その後日本海に抜けた。この台風の接近と満潮時刻が重なり、岡山県の沿岸では高潮が発生した。	台風の影響で高潮が発生し、備前市と瀬戸内市で複数の浸水被害が発生した。 ・住家被害 【床上浸水 2棟(備前市 2棟)、 床下浸水54棟(備前市32棟、瀬戸内市22棟)】 ・非住家被害【床下浸水35棟(備前市16棟、瀬戸内市19棟)】
9月3日 ~5日	強風 高潮	8月28日に日本の南で発生した台風第21号は、9月4日12時頃に徳島県南部に上陸したのち、4日14時頃に兵庫県神戸市付近に再上陸、4日20時には佐渡市の西約90キロに達した。この台風の影響で、岡山県では満潮時刻と重なったこともあり、海沿いの市町村に高潮警報を発表した。	強風により岡山市で2名の軽傷者が出たほか、沿岸部で高潮が発生し、備前市と瀬戸内市で複数の浸水被害が発生した。 ・住家被害 【床上浸水 2棟(備前市 2棟)、 床下浸水40棟(備前市35棟、瀬戸内市 5棟)】 ・非住家被害【一部破損 1棟(備前市 1棟) 床下浸水20棟(備前市12棟、瀬戸内市 8棟)】
9月30日 ~10月1日	強風 大雨	非常に強い台風第24号は、四国の南海上を北東に進み、9月30日20時頃に和歌山県田辺市付近に上陸した。その後も北東に進み東日本から北日本を縦断した。この台風の影響で30日午後には岡山県で強風が吹き、県西部を中心に大雨となった。	強い風の影響により岡山市、倉敷市、浅口市で合計3名の重軽傷者が出たほか、大雨により複数の市町村で浸水被害が発生した。 ・住家被害【一部破損 2棟(玉野市 1棟、真庭市 1棟)、 床下浸水14棟(玉野市 1棟、高梁市 2棟、 新見市 9棟、浅口市 2棟)】 ・非住家被害 【浸水13棟(新見市13棟)】